

- ト
264. 加藤雅晴・荒井 纓(日本ユニバック総研)・辻倉陽三・村山信彦(気研・衛星): 静止衛星画像の自動地図変換実験
265. 山田博英・新谷忠敬・伊藤 博・杳掛 暁(日本CDC)・村山信彦・辻倉陽三(気研・衛星): 歪無修正の ATS-3 画像からの雲移動ベクトル算出と地球楕円体近似のラスト
266. 木村忠志(防災センター・雪害): TK-1 型積雪の深さ計による降積雪観測
267. 木村忠志(防災センター・雪害): 一次元降積雪情報のひとつの応用
268. 木村忠志(防災センター・雪害): レーザー・ビームによる降雪検出
- 第3会場 放射 座長 岩 坂 隆**
355. 青木忠生(東北大・理): 重畳した吸収線による吸収関数
356. 田中正之・青木忠生・山内 恭・山本義一(東北大・理): CO<sub>2</sub> 近赤外帯の吸収特性
357. 関原 強・嘉納字靖・宮内正厚(気研・高物): 成層圏放射収支について
358. 新田 勅(東大・理): AMTEX 1974 における放射加熱(冷却)の垂直分布
359. 森山 茂(日大・習志野): 火星大気中のダストによる熱的効果と大気現象への重要性について
360. 福山 薫(京大・理): 中間圏・下部熱圏における中性大気成分の分布(IV)——日変化——
361. 岩坂泰信(名大・理): オゾン層における SO<sub>2</sub> の酸化反応(Ⅲ)
362. 小川利紘(東大・理)・島崎達夫(NOAA): 成層圏微量成分の高度分布モデル
363. 小川利紘(東大・理)・島崎達夫(NOAA): SST 排気ガスによる成層圏オゾンの破壊

#### 講演企画委員会より研究発表者に御願い

講演時間は平均12分程度しかありませんので、スライド、図表類は十分整理し、討論してもらいたい要点が分

るように発表して下さい。持ち時間を超過した場合は中止していただく場合もあり得ますので御注意下さい。

### 1974年秋季大会予稿集について

定期購読者以外は直接学会事務局へ申込んで下さい。定価1部850円(予定)

### レーダー気象月例会のお知らせ

日 時: 昭和49年12月12日(木)  
会 場: 気象庁内  
内 容: 午前 シンポジウム(エコーパターンの消長と移動について)  
午後 研究発表

申 込: 研究発表希望の方は300字以内の要約を付けて、下記に10月12日(土)までに申込むこと  
東京都杉並区高円寺北 4-35-8  
気象研究所台風研究部 柳沢善次